

## 白山周辺における最近の地震活動

岡本拓夫、和田博夫、平野憲雄、竹内文朗、伊藤潔、西上欽也、渡辺邦彦、前澤廣道

### 1. はじめに

石川・岐阜県境にそびえる白山(2702m)は、400年程前に噴火の記録がある活火山である。噴火の記録から400年での活動周期が指摘されている。その為、近年に噴火活動への注意が取りざたされるようになってきた。しかし、白山周辺の観測態勢は充分ではなく、地震活動に関する研究もあまり進んでいない。少ないながらも、東田他(1990)は、御前峰直下定常的な活動を指摘した。岡本他(1997)は御前峰直下に高減衰域の存在の可能性を言及した。高橋他(2003, in press)は、臨時観測から御前峰直下の活動が海拔以下2kmと、大変浅いことを見出した。このような研究環境下で、近年、周辺において地震活動の活発化の傾向を感じさせる事象が多く認められるようになったこと、また、岡本他(2002)による若狭湾周辺で2000年より地震活動が活発化している指摘もあり、本研究では発生個数について言及し、活発化についての事実を確かめる。最近、近傍で起こった群発活動の地震分布、メカニズム、地上のトレース等も併せて言及する。

### 2. データ

解析に用いた震源情報は、北陸観測所で研究用に維持されているものを用いた。再決定に用いた読みとり値は、上宝観測所のルーチン及び北陸観測所の研究用である。

### 3. 解析方法

ルーチンによる震源決定は Win-system、再決定は MJHD(古川・井元、1992)、再決定の構造は竹内・平野(1985)、メカニズムは片尾の方法による。また、作図は片尾の hyperDPRI を使用した。

### 4. 結果

北陸観測所による最近の白山周辺の震央分布

図を示す。予稿集用の図は、Win-system に切り替わってからの期間を示した。北陸観測所によるものである。震央分布図の特徴は、御前峰直下に認められる地震活動と少し離れて周辺に認められる活動である。御前峰直下の活動はほぼ定常的であるが、周辺部の活動が顕著になってきた。特に、福井県嶺北(坂井平野区)部、奥越部、石川県加賀東部である。講演では、それぞれの領域において地震の発生個数の積算図を示す予定である。それらの活動の中で、坂井平野直下、加賀東部の活動について再決定を行っている。現在のところ地震活動の並びと主要地震のメカニズムとは合うが、地上のリニアメントとは殆ど対応が認められない、つまり嶺北部は福井地震断層と合わず、加賀東部は森本断層と合わないという結果を得ている。講演時には、再決定結果の特徴、地表の履歴との不一致の議論も併せて行う予定である。

